

徳島新聞
2006年6月27日

吉野川市 観光で活性化

観光による吉野川市の活性化策を話し合う運営委員と市役所



商工会 など 調査研究開始

吉野川市内にある三商工会と二商工会議所は二十六日、市内の観光資源を活用した新しい観光戦

略を立て、活性化に結び付ける「市観光まちづくり調査研究事業」を開始、運営委員会の第一回会合を市役所で開いた。本年度中に報告書をまと

める。

調査研究事業では、山間地の過疎化や中心市街地の空洞化を課題に挙げ、観光によるまちづくりを調査、研究することで、交流人口の増大と地域経済の発展を狙う。

運営委員会は、県と同市の観光担当者や商工会関係者ら八人で構成。委員長を徳島文理大学総合政策学部の中村昌宏学部長が務め、事務局を美郷商工会に置く。

この日は、観光振興のアイデアを年二回、市民から募集する▽講演会を七、十一月に開き、意識啓発をする―などの事業計画を承認した。

また、委員が意見交換し「ホテルなど、見ごろの時期は短い。オフィス・ズンのイベントや特産品でつなげたい」「『限定』は魅力的。期間が短いのを逆手に取っては」「鳴門市の渦など、他の観光地目当ての客を半日ぐらい呼べるように狙うのも一つの手だ」などの意見が出ていた。